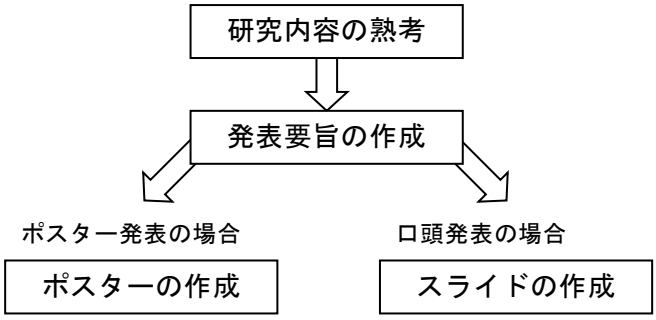
# 第４章　研究成果の発表

研究の結果や自分たちの考察などは、きちんとまとめて発表を行う。発表を聞いてもらった人から感想やアドバイスをもらい、お互いに意見交換することでその後の研究に活かしていくことが目的である。発表には、ポスター発表・口頭発表・レポートや論文としての発表などがある。「科学探究Ⅰ」「科学探究Ⅱ」の授業内でも、中間発表会や本発表会など、何度か発表の機会があり、この章では、本校で行う発表会で用いる形式に沿って記載しておく。発表の準備に取り組む際は、このページを見ながら要旨とポスター・スライドの作成に取り組むこと。要旨もポスターも以下のフォルダに様式の例（雛型）があるので、必ずコピーしてファイル名（例えば、物理１班など）を変更し保存してから編集すること。また、先輩の発表の例をいくつか巻末資料に掲載したので参考にしてほしい。

**グループ共有フォルダ　⇒　112-総合科学科　⇒　〇〇期生　⇒　２年課題研究中間発表会**
**または、３年課題研究発表会　⇒　発表要旨(提出用・完成版)、または、ポスターなど**

第３章で述べたように発表の作成作業に入る前に、研究内容についてしっかりと考察しておく。発表に向けてまず研究概要をまとめた要旨を作成した後、詳細をまとめたポスターやスライドの作成にとりかかる。




## １．発表要旨（レジュメ）の作成

発表要旨は、研究の内容を簡潔にまとめたものである。研究内容として最も重要な点や、それにつながる事柄などを分かりやすく書くように心掛ける。“発表を聞く人”は要旨を見て、聞きたいテーマを見つけることが多い。結果や考察についてしっかりと議論をしたうえで作成にとりかかり、期限に余裕をもって担当の先生から添削指導を受けること。

泉北高校の発表要旨集

### (1) 発表要旨の様式

要旨は、「Word」で作成する。指定する用紙やフォントを使い、要旨全体で統一感のあるように心掛ける。文末は「～である。」で統一すること。

〔標準的なフォント〕

| | | |
|---|---|---|
| タイトル | ：ＭＳゴシック | １４ｐｔ |
| 英語タイトル | ：Arial | 12 pt |
| 英語 Abstract | ：Times New Roman | 10.5 pt |
| 見出し | ：ＭＳゴシック | １２ｐｔ |
| 本文 | ：ＭＳ明朝 | １０．５ｐｔ |

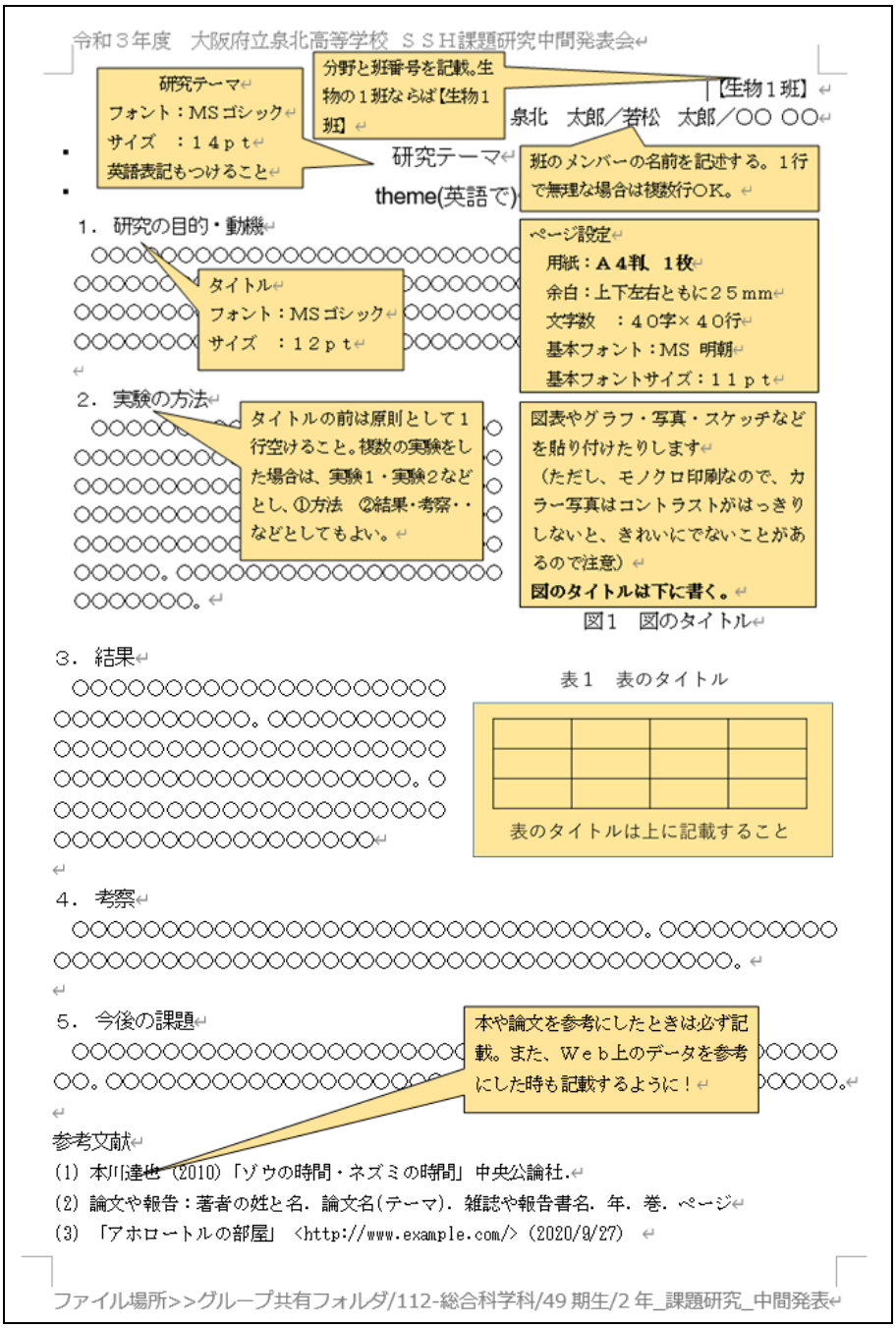
① 中間発表会（２学年１１月「科学探究Ⅰ」）
・Ａ４判１ページ、タイトルのみ英語表記。

② 本発表会（３学年６月「科学探究Ⅱ」）
・Ａ４判２ページ、タイトルと Abstract を英語表記。

※ Abstract とは抜粋や要約のこと。英文 3～4 文程度で作成する。

### (2) 発表要旨の内容構成

原則として、次のような構成に基づいて記載すること。内容に応じて適宜変更してもよい。




#### ① 研究テーマ名

研究の題名。興味を持ってもらえるよう工夫があると良い。英語表記をつけること。本発表会の要旨では、Abstract(要約)を英語で表記する。

#### ② 研究の目的(または､「研究の動機」「はじめに」)

研究で明らかにしたいこと、最終目標。中間発表では、その研究テーマに興味を持ったきっかけや、その研究を始めるに至った経緯などでもよい。また、その研究内容を理解しておく上で、知っておいてほしい知識（例、知られていない原理や実験に使った生物の紹介）なども書く。

#### ③ 実験方法

取り組んだ実験・研究の方法を簡潔にまとめる。基本的に過去形で書き、図や写真を用いて、わかりやすくするように心掛ける。実験材料は必要に応じて記載すること。スペースが足りない場合は、最も伝えたい実験のみでもよい（ポスターやスライドでしっかりとまとめる)。複数の実験の場合は、実験１・実験２のように分けて記載する。また、実験方法は、他の人がこれを読めば追試ができるように書くのが原則。

#### ④ 結果

表やグラフ・写真やスケッチを用いて実験結果や観察した結果をわかりやすく示す。ここでは、得られた結果のみを客観的に示すことが重要。「考察」と区別すること。スペースが足りない場合は、最も伝えたい実験結果のみでもよい。

#### ⑤ 考察

実験の結果の解釈やそれらから考えられることを述べる。関係性・傾向・現象が起こる要因など、結果をまとめた図表を参照して自分の主張を裏付ける。これまで知られてきたことや先行研究に基づいて、今回の実験で得られた結果がどういう意義があるのかを論理的に説明する。

### ⑥ 今後の課題

中間発表の時には、これまでの実験の不十分な点や問題点についても触れ、今後、最終的な発表会までに何をすべきかを考えて、記載しておく。本発表会時には、研究の不十分な点や限界を「考察」の中で書くとよい。

### ⑦ 参考文献や謝辞

実験をする前の予備知識や実際に実験をするにあたって参考とした資料(書籍・雑誌・過去の要旨集・ホームページ)などを明記する。参考文献の書き方には一定の決まりがあるので、50 ページを参照。また、研究を進める上で情報の提供を受けた人や機関への謝辞もここに書く。